
よりどり！

せか

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

よりどり！

【Nコード】

N4509D

【作者名】

せか

【あらすじ】

とにかく彼女が欲しい「俺」が主人公だと思えます。俺と女の子の関係をかいたコメディのつもりです。よければ、ですが読んでくださるとうれしいです。

第一話 俺×スズメ？（1）

名前、はなのいち花野一かもめ。

年、今年で16。

そこでここ一番大切なんだけど、欲しいもの、彼女。

できれば美人。

ということでその唯一の条件（俺ってば謙虚）に一番当てはまる人（つまりクラス中で一番の美人ってこと）に今からアタックしようと思ってるんで、応援よろしく。

そうそう、名前、そのアタックする人の名前、すずめの かよい鈴芽乃香宵だから。

「すーずっ」

まずはこうやって彼女をあだ名で呼んでみる。うん、なんか親しい感じするよね。

「あ、花野一君、おはよう」

しかしずずはガードが堅いっていうかちょっともしもじ系のもの静かな女の子なんでいつもこうやって俺のことを苗字で呼ぶ。

しかししかし、こうやって毎日喋りかけてるわけであって少しずつ彼女も俺に打ち解けてきてるはず。

「ほらすずさ、この前欲しがってたCDあったじゃん？」

こう言つとすずはえ、もしかして、という顔になる。ふふん、可愛いやつめ。

その期待に応えるべく、俺は大げさにCDを取り出した。

「じゃ、じゃーん。俺買ったから、コピーして来たよん」

「ええええ！ わ、ありがとう花野一君っ」

そうも言われると、こっちまで嬉しくなっちゃいますね。

じゃ、ここで1つ、決め言葉でも言ってみますか。

上目遣い（いや男でも効くよ、上目遣いって。ほんとまじで）して声もいつもより低めに。

「すずにしかわざわざこんなことやらないよ？」

これで惚れない女はいないって。

まあ、すずもその例外ではないわけだ。

第二話 俺×スズメ? (2) というかオチ

朝のやりとりの後。

もう87%俺に惚れているだろうと確信しながら授業を受けると何故かこれがもう楽しい楽しい。いわゆる恋の力ってやつさ。

あ、ちなみに87%ってのは謙遜込みだから。

先生の話のあいだあいだにすずに向けてサインを送ってみたりして。

ぱちり

それに気付いたすずはふふっと笑って控えめに手を振る。

やべ、超いいかんじなんすけど。

もうこれ告白してもいくね?

そんな幸せな幸せな1時間目が終わり、さあてすずに話しかけにいくかって席を立ったとき。

むむっ。

なんとすずは他の女子共と一緒に席を立ってどこか行ってしまった。

追わねばつ。あ、いや、別にストーキングとかじゃないですから。

すず（と女子共）の入っていったのは図書室だった。

なんと！ すずに似合う場所ランキング1位の図書館とは！
（ちなみに2位は保健室）

女子共でかしたな！

すぐ入ったらつけてきたとか怪しまれるからしばし図書室のドア前で身を潜める。

するときゃらきやらと女達の騒ぐ声が聞こえてきた。

図書室をなんだと思ってる！と思いつつ、その声のなかにすずの
声が混じってないかと耳を澄ます。

すると……

「ね、すずっ。花野一君ってさ」

おお。俺の話題。

「あー、私も思った。絶対あれすずのこと好きだよね」

ん？

「でもさ、正直あれじゃない？ 休み時間毎に喋りかけてくるとかさ」

んんん？

「えっなにそれ。キモっ」

なんか俺、言われてないか？

「ねーねー、すすっ。正直どうなの、あいっ」

と、ついにはすすにまで話題を振った。

すると、しばし図書室が静寂に包まれ、その後、控えめな感じの
声が響いた。

「ちょっと……迷惑……かも」

頭が真っ白になった。

なんだそれ。

急展開に頭がついてかないんですけど。

けど1つだけいえることは

い
っ
て
え、
俺

第三話 俺×ツバメ？（1）

くそう。騙された。

なにが「すず」だ。あんなおとなしそうな顔して！

もう清楚系はやめた。裏に何があるか分かったもんじゃない。

ということでは俺はまた好きな子探しを始めることにした。ただし清楚系はなし。

教室を見回す。ううん、いい女いないぜ。

教室外で探そうと、立ち上がったそのとき。

「おっ。かも、お出かけですかあ？」

驚いて振り向くと、そこにはショートカットのヘアを茶髪に染め、超短いスカートを履いた軽そうな女子が立っていた。

「おっ、鰐芽おはじ。なに？」

「うん？ かもがどこ行くのかなーって」

そう言ってあははと笑う。明るいやつだ。

「ま、いいや。いってらっさい」

ふりふり手を振る鰐芽に

「んん。特にどこにも」

と言うと、不思議そうに「そお？」と言って、ま、いいやと笑った。

話している間に鰐芽の顔を眺める。

あれ……なんかこう見ると、鰐芽って可愛くね？

あははと笑うときにはみ出す歯は白くて健康的。運動系の部活に入ってるだけあって肌は綺麗な小麦色。

やっぱ。鰐芽がすんごいキラって見えるんだけど。

「ありや？　かも、なんかにやけてんじゃない？」

と顔を覗き込んでくる。顔、顔が近い。

「すーけーべー」

というかというか、こんな至近距離に近づいてくるってことは、俺のことは嫌いじゃないんだよね？　というかむしろ……俺のこと好きだったり？

えー、まじでまじで。うわどうしようドキドキすんだけど。

やっぱ清楚系より活発系だよな。

うん。
惚れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4509d/>

よりどり！

2011年1月26日15時38分発行